

高畑遺跡第22次調査の概要

2021.4.9 福岡市埋蔵文化財課

福岡市埋蔵文化財課では、令和3年1月から3月まで、博多区板付6丁目で発掘調査を行いました。調査中は近隣、ご通行の皆様にはご協力いただきありがとうございました。終了にあたり概要をお知らせいたします。

今回の調査では、地表下 70 cmほどで5世紀～6世紀(古墳時代)の土器が集中して出土し、さらにその下からは弥生時代の始めから終わり頃(紀元前5世紀頃～紀元後3世紀)の遺物が出土しました。大きく分けて上下2段階の調査となり、予想より多くの遺物が出土しました。遺物はコンテナケース 70 箱ほどです。

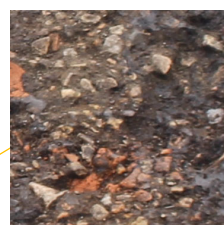
高畑遺跡は、現在の警察学校がある丘陵上(高まり)とその周辺のやや低い水田部分に広がっています。これまでの調査で、丘陵部分に弥生時代から古墳時代の集落が見つかっています。今回出土した遺物は、この集落の人々が使った物と考えられます。調査のようすを順に追ってみます。

【古墳時代】

まず重機で表土を掘削すると黒色土となり、細かく割れた土器片が一面に広がって出土しました。特に幅2mほどの帯状の範囲には密集し、土が見えないほどでした。



帯状に集中



細かな土器片



土器片をはずすと・

土器片をはずして掘り進めると、多くの土器がつぶれた状態で現れました。土器片はこれらの土器が割れたものと考えられます。





高坏



甕

土器は主に5世紀代のもので、6世紀はじめ頃のものもあります。その場に置いたようなものが多く、捨てた状況ではなさそうです。周囲には炭が広がり、炭化した木材が出土しました。

この時期の住居の跡は西側の丘陵上で見つかっています。水辺に近いこの場所は、通常の生活ではなく、祭祀や儀式などを行ったのではないかと考えられます。土器の中にはお供えものなどが入っていたのでしょうか。



壺



坏（6世紀はじめ）



土製・石製の紡錘車
糸をつむぐ時に使う



滑石製の玉
装飾品などに使われ、儀式などの場でも用いられる。
西側の丘陵上で玉造りの工房が見つかっている。



【弥生時代】

次に古墳時代の土器の下に掘ると、弥生時代前期から後期の遺物が出土しました。黒色土の下は黄白色の地山です。西側には丘陵からの斜面があり、その他はほぼ平坦です。



弥生前期の壺
器面を丁寧に磨き、文様(羽状文)を刻んでいる。

ここから木製品が出土 次頁へ

平坦面

丘陵斜面



木製の鋤と現在のスコップ

黒色土の一面からは建築材や鋤などの木製品が出土しました。周辺の土器から弥生時代後期(1世紀から3世紀)のものと考えられます。



石包丁 稲の穂を摘む道具

左は弥生前期、右は中期から後期のもので、形と石材に違いがある。右は飯塚地方の石材。

【縄文時代・旧石器時代】

更に古い縄文時代と旧石器時代の石器も出土しています。1万 5000 年以上前から人々が活動した痕跡です。



石鏃(黒曜石)
縄文時代、一部弥生時代



石鏃(黒曜石) 縄文時代
白い黒曜石で大分県国東半島沖の姫島産の可能性
がある。



石鏃(黒曜石)
縄文時代
先端を尖らせたキリ。



磨製石斧
縄文時代



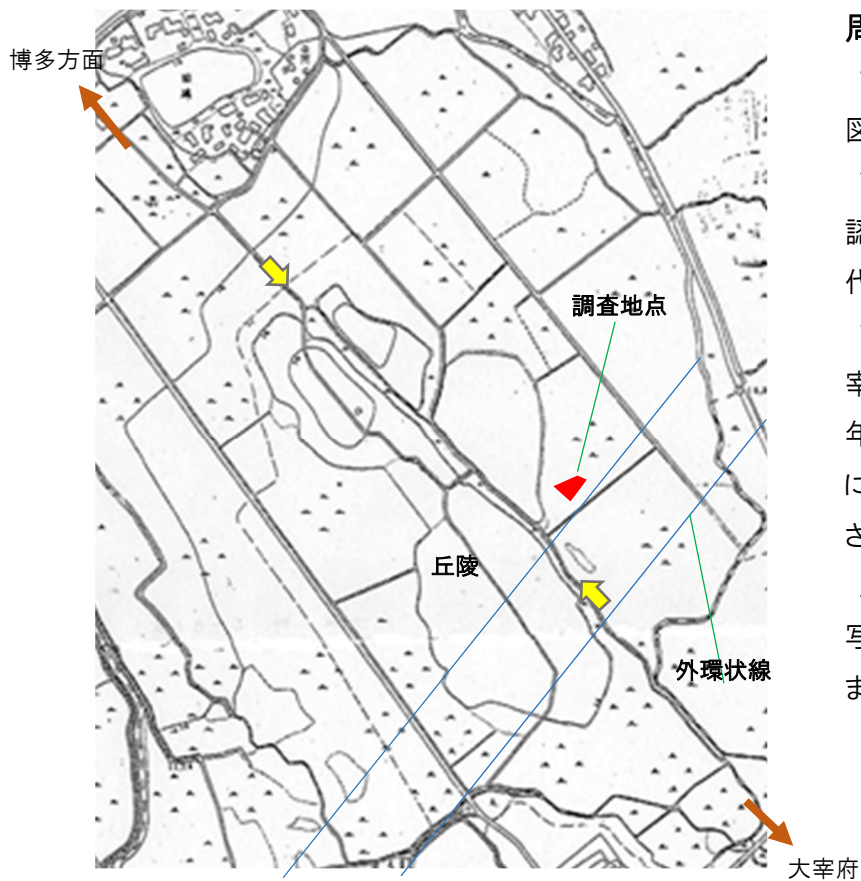
台形石器(黒曜石)
旧石器時代



細石刃(黒曜石)
旧石器時代
骨や木の槍などに埋め込む刃



シベリアの出土例
小畑 2001 より



昭和初期

周辺の地形

調査地点の立地を知るために、地形が残る古い地図、空中写真に調査地点の位置を落としました。

調査地点は丘陵(高まり)の東側縁辺にあることが確認できます。丘陵の上では、これまでの調査で弥生時代から古墳時代の集落跡が見つかっています。

また、丘陵を縦断する切通し(黄色矢印➡の間)は大宰府と博多方面をむすぶ古代官道の痕跡で、昭和 14 年の空中写真にもはっきり出ています。古代の丘陵上には、官衙(役所)または寺などの施設があったと想定されています。

丘陵は戦時中に工場建設で造成され、昭和 22 年の写真では現在の警察学校の敷地と同じ区画が見られます。



昭和 14 年



昭和 22 年

写真は国土地理院ウェブサイトデータを加工して作成